

府立大学のガバナンス改革について

平成25年8月27日
大阪府立大学

地方独立行政法人制度の有効活用を基本に ガバナンスの強化の観点から府立大学が工夫・実施してきた諸施策

■大学におけるガバナンスとは・・・大学全体として、統一的な意思決定に係るシステム

■意思決定の確保に必要な要素・・・透明性、健全性、誠実性

■課題・・・ ①判断の全体性の欠如
②極端な民主主義的発想
③意思決定の閉鎖性

■府立大学としてのガバナンス改革【別紙1】

○意思決定

- ・①理事長・学長選考
- ・②学域長等選考
- ・③企画・戦略会議
- ・④全学組織の設置

※全学的課題に責任者を
明確にした組織を設置し
対応

(例)

教育方法の改革【別紙2】

○人事制度

- ・⑤外部人材登用
- ・⑥人事委員会
- ・⑦学術研究院

○予算制度

- ・⑧インセンティブ予算

○コンプライアンス

- ・⑨監査制度
- ・⑩法人・大学評価

○情報の開示

- ・⑪情報の活用・発信

■府立大学のガバナンス改革について

【別紙1】

項目	内容
①理事長・学長選考	・選考方法は、全学による選挙から、理事長(学長)選考会議による選考に変更。 (委員総数の2分の1は学外委員)
②学部長等選考	・理事長主導による決定に変更。(H17～) (教授会による選考→候補者2名以上を推薦し、理事長が決定、任命)
③企画・戦略会議	・戦略的運営のための重要事項をトップダウンで検討する場を設置。(H23～)
④全学教育研究組織	・教育方法の改善、複合型研究の推進、外部資金獲得等の重要事案について、全学的な課題に対応するため、教員が参画する推進組織を設置。 (高等教育推進機構(H23改編)、地域連携研究機構(H23改編)、21世紀科学研究機構(H21～)、国際交流推進機構(H23～)) ※その他の例示「教育方法の改革」【別紙2】参照。
⑤外部人材登用	・外部人材の登用や、プロパー職員の社会人採用の実施、企業等実務家教員の招へい。(H17～) (役員) 理事長及び理事の2分の1以上は、外部人材を登用 (経営会議) 委員の2分の1以上は、外部人材を登用 (教育研究会議) 外部委員の登用(4名)
⑥人事委員会	・教員人事を、教授会から法人人事委員会による選考に変更。 原則、公募。国際公募も実施。教授会は、業績審査を実施。(H17～)
⑦学術研究院	・教員組織と教育組織を分離し、適材適所の教員配置を実施。(H23～)
⑧インセンティブ予算	・予算の重点化・配分裁量化の実施。(H17～) (重点戦略予算、学長裁量経費、部局長裁量経費)
⑨監査制度	・監事監査(弁護士、大学経験者を知事が任命)、会計監査人の監査に加え、内部監査を実施。
⑩法人・大学評価	・地方独立行政法人法による法人評価(毎年度)、自己点検評価(3年に1度)、認証評価(7年に1度)に基づく、PDCAサイクルの実施。
⑪情報の活用・発信	・情報収集を自らの改善に繋げる。また、大学の活動を広くわかり易く説明する工夫。 (全国大学サイト・ユーザビリティ調査 第1位 H23、H24) 大学サイトの使い勝手を評価 (Gomez大学サイトランキング2013 第3位) WEBサイトの使いやすさ情報の充実度を評価

府立大学の教育方法の改革について

【別紙2】

項 目	内 容
FD (組織的实施は H17～)	主な活動:授業アンケート、FDワークショップ、FDセミナー、新任教員研修、ピア授業参観など 企画立案:高等教育開発センター、審議機関、教育改革専門委員会(全学) 実 施:全学、学部局
GPA (H17年度 入学生～)	算定方法:学期ごとに算出、授業科目ごとに5段階(4～0)で評価。 不合格となった科目や再履修した科目は加えるが、自由科目や他大学修得科目は除く。 活用方法:成績優秀者のCAP上乘せ。成績不振者の指導。研究室配属。早期卒業(一部の学部)判定等
CAP制 (H17年度 入学生～)	受講申請の上限: H23年度以前入学生:前期25単位、後期25単位(実験、実習、演習科目、自由科目を除く。) H24年度以降入学生:1年次は前期24単位、後期24単位。2年次以降は原則、年50単位。 成績優秀者の上乗せ:成績優秀者は、次期に6単位まで上乘せ申請できる。
授業アンケート (H17年度 後期授業～)	対象授業:学域、学部、大学院の授業(学部等が指定する少人数授業等除く。) 方法等 :Web実施が基本。年度により紙との併用。携帯の活用など工夫。担当教員からコメントを返す。 H24～学習ポートフォリオシステムを活用
シラバス	配付方法等:H21年度～ 第1回授業において配付。 H23年10月～学生ポータルに掲載 H23年度～ 学外公開ホームページに掲載 記載項目 :授業の基本情報、オフィスアワー、授業目標、教科書、参考書など10項目
アクティブ ラーニング	初年次ゼミナール(H24年度～、1年次、必修)、演習科目、インターシップ科目、卒業研究等。 学生の自習スペースとして、ラーニングコモンズをH22年度～順次整備
ポートフォリオ (H24年度 入学生～)	目 的:目標を意識しながら学ぶこと、自分自身の学びを見つめる目を養うこと、学びについて得た気付きを自己改善につなげることを目的として導入。 記入事項:学期の学習目標、学習の振り返り、自己評価、受講科目の学修自己評価。 教員の活用:学生アドバイザーによる履修指導、授業担当教員の教育成果の確認、教育改善等
初年次教育 (H24年度～)	科目名等:「初年次ゼミナール」(必修2単位) 1年次前期配当 目 的:中等教育までの比較的受動的な学習態度から大学における能動的学習への学びの転換 クラス数等:91クラス、14人～18人/1クラス。学域混合により編成。